昭和43年3月1日第3種郵便物認可

生きがいのある社会づくりは 3つの輪 明治人 知恵 と 大正人 ロマン と 昭和人 行動力 で

九月十五日は「敬老の日」。また、この日から一週間は「老人福祉週間」です。ところで、最近は全国的に〝孤独な老人〟がふえています。警察庁がまとめた五十四年中の〝自殺白書〟によると、昨年一年間の全自殺者のうち、六十五歳以上のお年寄りは四千九百九十九人で、「年代層別ではトップ」という悲しい数字を記録しています。いったい、その理由は何なのか、敬老の日を機会にみんなで考え、そして、解決していきたいものです。

●9月15日 敬老の日
●9月15日～21日 老人福祉週間

―グリムの童話― パパの〝餌箱〟

有名なグリムの童話にこんな話があります。

年老いた父といたずら盛りの子供を持つ農夫がいました。この農夫は、年老いた父が食べ物をこぼしたり、皿を割るのを見て、木の鉢を与え、家族と離れたところで食事をさせていました。

ある日、農夫は子供が小さな板切れを集めているのを見つけ、何をしているのかと聞くと、少年は胸を張って答えたのです。「パパが年とったときのために、これで〝エサ箱〟を作るんだッ」。

その日以来、祖父が一家と同じ食卓につくようになったのは言うまでもありません。

この童話は、私たち人間の心の裏側を実に巧みに描き出しています。残念ながら日本にはこの話しに登場するような孤独な老人が増えています。

老人の自殺の原因や動機をみると、「生きがい」など、心の問題が上位を占めているのがはっきりしています。

〝生きがい〟とは

老人の「生きがい」とは何でしょうか。総理府が五十三年に行った調査をみますと……

①息子や孫の成長……32％
②職業・仕事……23％
③趣味・娯楽……15％

と続いており、「社会活動」と答えた人は、わずか四％です。

そして問題なのは「生きがいを持たない」と答えた人は二九％もあるという事実です。

「息子や孫の成長だけ」と「生きがいなし」を加えると、実に六一％にもなり、ここに受け身で孤独な〝現代の老人像〟が浮かび上がってくるのです。

ギリシャの古いことわざに、「家に老人がいなかったら、一人借りよ」というのがあります。つまり老人の長い人生の経験で培われた知恵は、人間社会の中で不可欠だということを意味するのでしょう。

これを現代の日本に置き換えるなら、「明治人の知恵と、大正人のロマンと、昭和人の行動力」で、明るく生きがいのある社会をつくり出そうということになるのではないでしょうか。

大館市の最高齢者は 長崎サタさん(96)

当市には、七十歳以上のお年寄りが四千五百五十五人おりますが、最高齢者は九十六歳の馬喰町にお住まいの長崎サタさん（明治十六年生まれ）です。

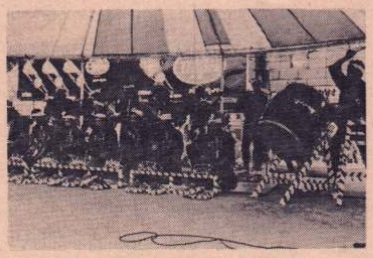
長崎さんは、耳が少々不自由なだけで、身の回りのことは全て自分で行うほど足腰はシャンとしており、時には裁縫箱を出しては、自分で針に糸を通して針仕事をするなど、とても元気な毎日を過しています。

また、若い頃の思い出話しを身ぶり手ぶり、しかもユーモアを混じえて話してくれました。

いつまでも元気に長生きしていただきたいものです。

われらが町内 わがグループ ～郷土の伝統芸能を守る～ 大館ばやし保存会

No. 14



〝ふり～ばる79〟で熱演する皆さん

およそ350年の伝統を持つ郷土芸能「大館ばやし」今回はその大館ばやしの保存と普及に努めるグループ「大館ばやし保存会」を紹介します

大館ばやしは京都の祇園ばやしの流れを汲むものとされ大館城主佐竹侯が水戸から遷封の際、道中の行進曲として持って来たものと伝えられています。その後、城内出入りの商人、職人の間で親しまれ、町方の若者たちが神明社の祭典に奉納余興として、その腕を競った――と記録されています

しかし、この大館ばやしも次第に人々から忘れらていきました。ところが昭和37年、青年会議所の東北大会が秋田市で開かれた際、各市から郷土芸能を出すことになり、当時会員だった成田松太郎さんが大いに悩んだ末、この大館ばやしを出したところこれが大好評、すっかり気を良くした成田さんらは「これこそ郷土を代表する芸能――」と、翌年に会を発足、会員を募りました。

大館ばやしはヨセばやし、祇園ばやし剣ばやし、還り山の四曲から構成され、これにさらに秋田音頭を加えたものが祭りの際披露されるわけですが、同会が設立されるやいなやあちこちから出演依頼があり、テレビ、ラジオなど広く全国にも紹介されてきました。また昨年は、東京で開かれた「ふり～ばる79」（国際文化協会主催）にも出演、その力強い「はやし」は日本人にはもちろん、外国人からも喝采を浴び、ショーのフィナーレを飾るなど、まさに国際的にも通じる郷土芸能としての評価を得ました。

しかし、こうした活動の中で相変わらず悩みの種は後継者の不足ということ。せっかく一人前になっても学校の卒業期になると就職や進学のため辞めて行く会員も多く、そのつど新しい会員を探すことになります。「できたら長男とかで、ずっと大館にいてくれる人がたくさん入ってきてくれたら」と話す成田さん。

とはいうものの、会員の意気はなかなか盛ん。鹿角の花輪ばやしに負けない日本一の大館ばやしにしたい、と今日も猛練習を重ねています。

敬老会開催日程

月日	地区	会場
9／2	下川沿	下川沿公民館
5日	上川沿	上川沿公民館
6日	真中	真中公民館
7日	釈迦内	第二中学校
7日	長木	ヘルスセンター大雪
8日	二井田	二井田公民館
14日	矢立	矢立公民館
15日	花岡	花岡体育館
21日	十二所	成章中学校
30日	大館	市民体育館

〝ガンの危険信号〟にご注意を！ 九月は「ガン制圧月間」

〝天高く馬肥ゆる秋〟の九月は「ガン制圧月間」でもあります。ガンで亡くなる人は年々増えており、昨年は全国で十五万人を超えました。本市でも昨年百二十七人の方がガンで亡くなっています。〝自分の健康は自分で守る〟――ガンをただ恐れるだけでなく、正しく知り、早期発見、早期治療を心がけましょう。そして、〝ガンの危険信号〟を参考に、ときどき自己検診してみてください

また、市では胃と子宮ガンの検診を毎年実施していますので、受けるようにしましょう。

▽ガンの危険信号

・ガンは無症状のうちに芽生えます。――特に胃、子宮、乳房、肺などは年一回検診を受けるようにしましょう。

・次のような症状があったら、すぐ、専門医に診てもらいましょう。

【乳房】……乳房の中にシコリはないか。

【食道】……飲み込むときにつかえることはないか。

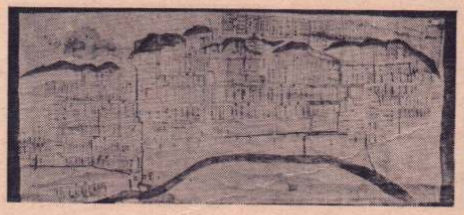
【大腸、直腸】……便に血や粘液が混ったりしないか。

【肺、喉頭】……セキが続いたり、タンに血が混ったり、声がかすれたりしないか。

【皮膚、舌】……なおりにくいカイヨウはないか。

【じん臓、ボウコウ、前立セン】……尿の出が悪かったり、血が混ったりしないか。

ふるさとの文化財 No. 11



「十二所士族屋敷絵図」は、二百三十人いたといわれる十二所の士族屋敷を図面化したもので、縦百三十七㌢、横百七十五㌢の掛軸になっており、絵図そのものは縦が七十二㌢横が百六十一㌢の大きさとなっています。

図面はかなり詳しく屋敷一軒一軒の間口や奥行き、坪数、さらには南方の崖の高さなど何尺何寸までも記入されています。また、十二所代官の茂木氏の城跡、神社、仏閣なども記載され、米代川や山、それに道や堀などには色彩をほどこすなど、旧藩時代の十二所城下町をそのまま書き写したもので、当時の状態が一目りょう然とわかる貴重なものです。

この絵図は、明治維新により士農工商の身分制度が崩壊し、華族、士族、平民の別にかわったことで、政府が士族の確認のための資料として、明治五年に名簿や絵図を提出させたものの控えで、藩政期の十二所の様子がよくわかり、歴史資料として高く評価されています。

十二所は、南部藩との藩境の要衝の地で、元和二年（一六一六年）に城下町としての骨格が形成され、その後、延宝七年（一六七九年）に完成、それが幕末まで続いたと言われています。

控えとしてのこの絵図は、十二所の士族であった岡本家に残っていたもので、昭和九年に郷土読本の資料として成章小学校に贈られ以来同校に保管されていたものですが、文化財の指定を機会に市に寄贈されたものです。

市の文化財 「十二所士族屋敷絵図」

昭和54年3月29日指定
所有者・大館市